

平成30年度

学校評価結果と改善策



【 「目指す児童像」 に対する評価基準 】 (数値目標)

児童

肯定率 (はい・概ねはい) が70%以上

保護者

肯定率 (はい・概ねはい) が70%以上

教職員

評価値 (はい4点・いいえ1点の合計÷人数) が3.0以上

【 協働型学校評価の達成状況評価基準 】 (数値目標)

☆できるようになったかを問う「成果評価」と、できるようにするための改善活動を実行したかを問う「行動評価」による総合判断

児童

「はい」占有率が55%以上

保護者

肯定率 (はい・概ねはい) が80%以上

教職員

評価値 (はい4点・いいえ1点の合計÷人数) が3.0以上

仙台市立広瀬小学校

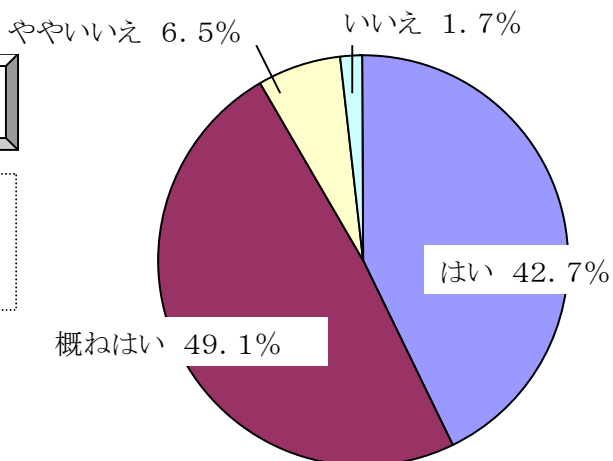
「思いやりのある子供」 (豊かな心)

児童アンケート

「わがまま(自分勝手)をしないで、
友達の気持ちを考えながら生活
することができましたか。」

肯定率 **91.8%**

達成

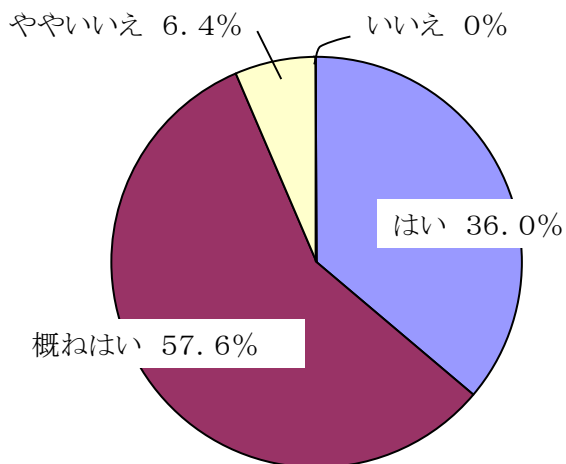


保護者アンケート

「お子さんは、思いやりの気持ち
をもって他者に接することがで
きるようになっていきますか。」

肯定率 **93.6%**

達成



教職員自己評価

「児童は思いやりの心をもって
他者に接することができるよ
うになりつつある。」

評価値 **3.3**

達成

「思いやりのある子供」を育成するための学校の取組と、保護者による学校の行動評価

	項目	肯定率
1	豊かな体験活動の提供	95.7%
2	児童主体の活動の提供	96.3%
3	保護者との子育て意識の共有の取組	90.8%
4	人との関わりや挨拶の推進	91.3%

【評価結果の考察】

「思いやりの気持ちを持って、他者に接する」ことについて、保護者の皆様から、93.6%の肯定的な評価をいただきました。これは、昨年度を1.4%下回ったものの、依然として高い水準を維持していると捉えています。子供たちは、91.8%と昨年度より3.2%上回る肯定的な自己評価を行っており、教職員も、評価値3.3と、「概ね満足できる状態にある」という結果が出ています。

「思いやりのある子供」を育成していくために、本校が掲げた重点努力事項の中で、保護者の皆様から特に高い肯定率をいただいた取組は、「豊かな体験活動の提供」と「児童主体の活動の提供」でした。また「人との関わりや挨拶の推進」についても昨年度に引き続き高い評価をいただきました。本校の教育活動において大切にしている、地域素材の活用や地域に住む方々との交流、そして、心の響く数々の体験活動が、学力育成だけでなく、子供たちの心の成長にも大きく役立っていることの表れと捉えています。また、一時肯定率が下がった「保護者との子育て意識の共有」についても、90.8%と改善傾向が続いています。これは、いじめ防止や教育相談等の取組を丁寧を実施してきた成果の表れと捉えています。

【次年度に向けた取組】

次年度も、『思いやりのある子供』の育成に向けて、学習を中心に学校行事や児童会活動等の様々な活動の中で人との関わりを重視し、「他者の立場になって考える」「感謝の気持ちを相手に伝わるように表現する」姿勢を身に付けられるように指導を継続していきます。また、「温かい言葉に包まれた教育環境づくり」を目指した取組を充実させます。

本年度から教科化された道徳教育の推進に当たっては、今後も道徳を構成する4つの内容項目の中の「主として他の人とのかかわりに関すること（礼儀・親切・助け合う・感謝）」を本校の重点事項と関連付け、道徳の時間を核としながら全教育活動を通して指導に当たります。また、子供たち一人一人が自己肯定感や自己有用感を損なうことがないように、児童の相互理解を大切にしながらより良い関係づくりを進めるとともに、いじめ防止にも着実に取り組んでいきます。

今後も、成果が見られた重点事項は継続し、検討の必要がある事項については、改善策を講じながら、保護者・地域の皆様とともに、子供たちの「心の教育」を充実させていきたいと存じます。

学校教育目標達成状況②

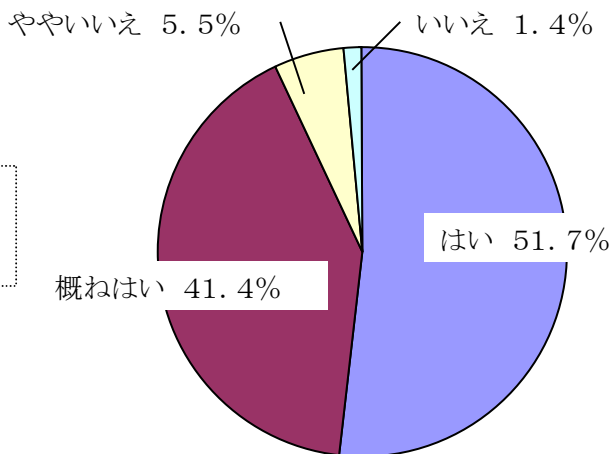
「進んで学ぶ子供」 (確かな学力)

児童アンケート

「授業中は、学習の約束を守って一生懸命勉強していますか。」

肯定率 93.1%

達成

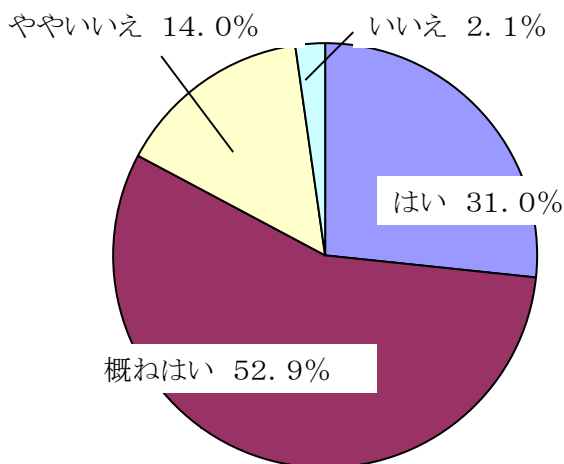


保護者アンケート

「お子さんは、授業に分かりやすさや楽しさを感じていますか。」

肯定率 83.9%

達成



教職員自己評価

「児童は確かな学力を身に付けつつある。」

評価値 3.2

達成

「自ら学ぶ子供」を育成するための学校の取組と、保護者による学校の行動評価

	項目	肯定率
1	基礎・基本の定着に向けた指導	89.7%
2	活用したり、調べたりする学習の展開	89.5%
3	指導法や指導体制の工夫	84.0%
4	「読む書く話す聞く」活動の充実	86.2%

【評価結果の考察】

平成30年度仙台市標準学力検査並びに生活・学習状況調査の結果、教科の正答率では、3年生が国語で、4年生が算数・理科で、5年生が国語・理科で、6年生が国語で、学習内容の定着を判断する目安の指標（目標値）を上回りました。学校では、この調査を通して分かった、各学年、各教科における課題を洗い出し、指導の改善と学習内容の定着を図っているところです。

児童アンケートの「授業中は、約束やきまりを守って一生懸命勉強していますか」では、肯定率が93.1%と昨年度より更に0.7%上回りました。保護者アンケートの「お子さんは、授業にわかりやすさや楽しさを感じていますか」でも、昨年度に引き続き高い肯定率となっています。ただ、保護者による学校の行動評価は、依然として高い肯定率ながら、4つの項目とも昨年度をわずかに下回りました。これは、保護者の皆様が『児童が身に付けた基礎・基本を基に、活用・探究へと学習をつなげていく』という本校の授業づくりの取組をある程度評価してはいるものの、お子さんの学びの姿や学習意欲等の目に見える成果には物足りなさを感じていることの表れと捉えています。

本校では、授業の充実を第一と捉え、ご家庭のご理解とご協力をいただきながら学習指導に取り組んできました。これからも「基礎・基本の着実な定着と探究的な学習の展開」を目指し、引き続きご家庭との連携を強化して、児童の指導に当たりたいと考えております。

【次年度に向けた取組】

保護者アンケートの「お子さんは、家庭学習に自ら取り組んでいますか」という項目については、肯定率が81.5%と、大幅に改善した昨年を4.7%下回りました。本校では、家庭学習の定着を目指し、児童への指導や働き掛けを続けてきましたが、家庭学習の充実にはまだ課題があるものと捉えています。今後は、学習ルールの見直しと合わせて、学年ごとの系統性を意識した効果的な家庭学習の在り方を検討し、保護者の皆様の支援をいただきながら指導に当たります。

教職員自己評価では、「児童は確かな学力を身に付けつつある」という項目の評価値が3.2と数値目標を上回る結果でした。今後も、少人数指導・一部教科担任制の導入等を通して、「個に応じた指導」の充実に努めるとともに、これまでの生活科・総合的な学習の研究成果を踏まえ、『主体的・対話的でより深い学び』を追求し、授業改善を続けてまいります。また、朝の時間を活用した「算数タイム」を導入し、学習定着の一助とする取組をスタートさせます。新学習指導要領の施行に向けた措置では、外国語活動の更なる充実を目指すとともに、来年度から導入される新たな情報教育への対応にも着実に取り組んでいきます。

学校教育目標達成状況③

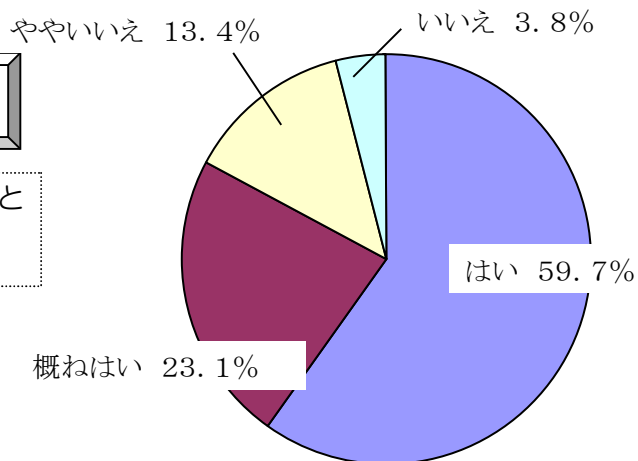
「たくましい子供」(健全な心と体)

児童アンケート

「進んで運動や外遊びをすることができましたか。」

肯定率 82.8%

達成

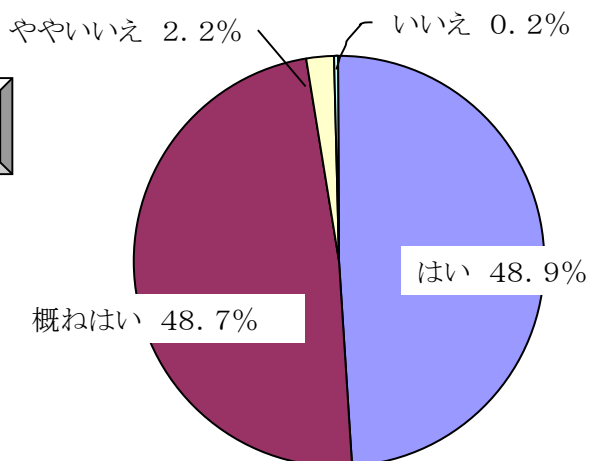


保護者アンケート

「お子さんの、心や体の健全な成長を実感することがありましたか。」

肯定率 97.6%

達成



教職員自己評価

「児童は健全な心と体を形成しつつある。」

評価値 3.1

達成

「たくましい子供」を育成するための学校の取組と、保護者による学校の行動評価

	項目	肯定率
1	体力向上のための継続的な取組	87.8%
2	基本的な生活習慣の形成・食育の推進	91.3%
3	心と体をときほぐす取組	91.9%
4	達成感を味わわせる行事の展開	92.9%

【評価結果の考察】

目指す児童像に掲げた「たくましい子供」には、「体力」だけでなく「自身自身の健康維持増進」「心の健康」「基本的生活習慣の形成」などの要素が含まれます。中でも「基本的生活習慣の形成」は、生活や学習の基盤となる大切な要素です。

保護者アンケートでは、「お子さんの心や体の健全な成長を実感することがありますか」という問いに対する肯定率が97.6%と、昨年に引き続き高い評価をいただきました。ただ、年度始めに行った仙台市の体力・運動能力テストの結果では、仙台市の平均に満たない項目が多数見られ、実効性のある体力作りへの取組が必要であることが明らかになりました。

一方で、一時は70%台まで落ち込んだ「達成感を味わわせる行事の展開」については、今年度も92.9%と、高い評価をいただきました。体育大会や学習発表会だけではなく、各学年で実施している様々な取組について、一定の評価をいただいたものと認識しています。新学習指導要領の施行に伴う授業時数の更なる増加を控えてはいるものの、達成感を味わわせ学校生活を充実させる学校行事の実施が、保護者の皆様からは期待されているものと捉えています。

【次年度に向けた取組】

「体力向上のための継続的な取組」については、肯定率が87.8%と昨年度より1.4%下回り、体力向上への取組の課題が反映された結果となりました。来年度は、『健全な身体の育成』に向け、学校独自の「体力向上プラン」を基に、運動量の確保を前提として体育学習を充実させるとともに、業間時間等を活用した「元気アップマラソン」の拡充や「元気アップ大なわとび」などへの取組を通して、運動の機会を確保していきます。また、本校の特色ある学校給食を活かした食育の充実に、今後も取り組んでいきます。「達成感を味わわせる行事の展開」については、今後も、子供たちの参加意識を高め、より主体的に関わることができるように活動内容を工夫していきます。

『健全な心の育成』に向けては、年4回のいじめを含む学校生活に関するアンケートの実施とその後の聞き取りや保護者との連携、年2回の「教師と児童の対話期間」の実施によって、児童の思いに寄り添うとともに、児童相互の望ましい関わりを促すための「言語環境の整備」を引き続き進めてまいります。また、保護者の悩みや児童の健康、発達等の課題に応じた教育相談体制の整備に取り組んでいきます。

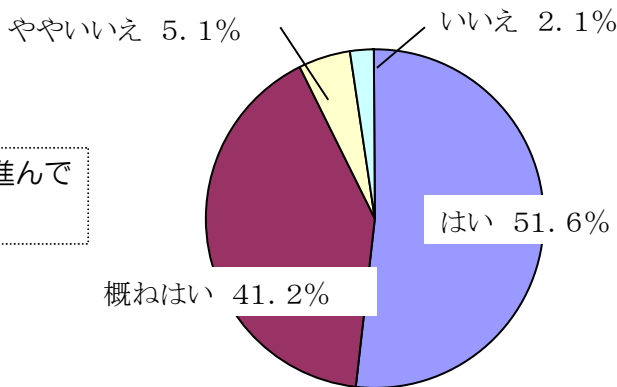
「気持ちの良い挨拶が進んでできる」

児童アンケート

「友達に対して、気持ちの良い挨拶が進んでできるようになってきましたか。」

「はい」占有率 51.6%

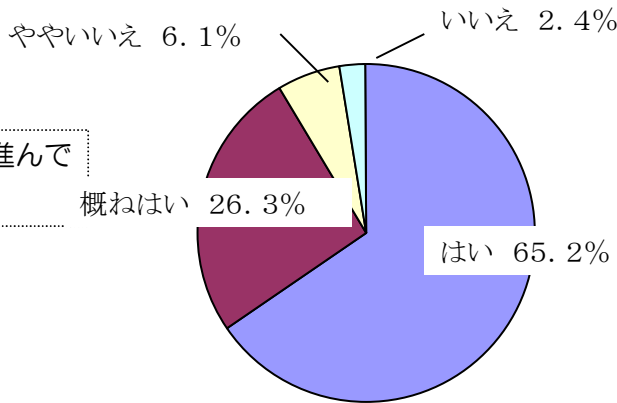
未達成



「家族に対して、気持ちの良い挨拶が進んでできるようになってきましたか。」

「はい」占有率 65.2%

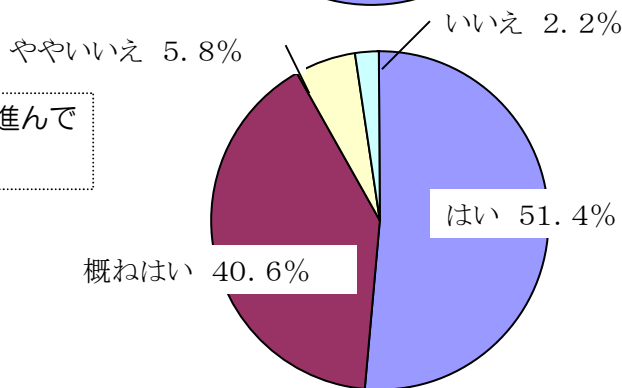
達成



「先生に対して、気持ちの良い挨拶が進んでできるようになってきましたか。」

「はい」占有率 51.4%

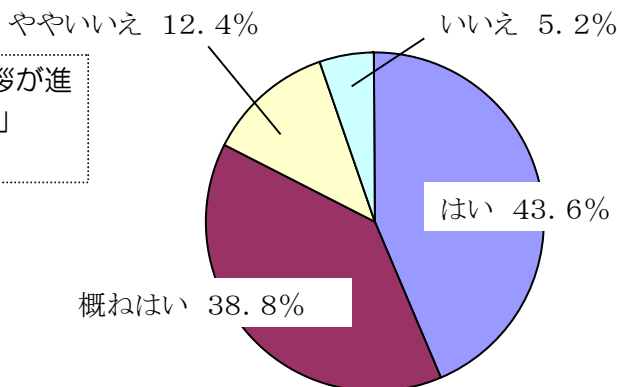
未達成



「地域の人に対して、気持ちの良い挨拶が進んでできるようになってきましたか。」

「はい」占有率 43.6%

未達成

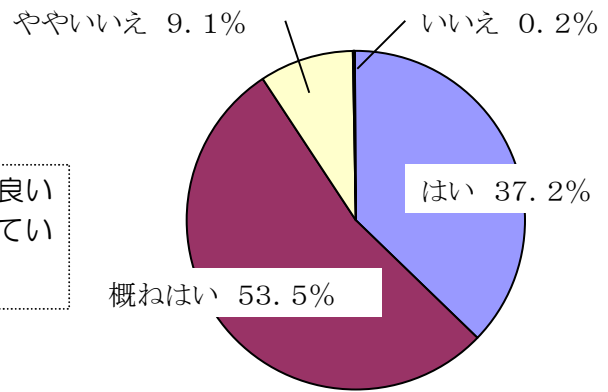


保護者アンケート

「本校児童は、友達に対して、気持ちの良い挨拶が進んでできるようになってきている。」

肯定率 90.7%

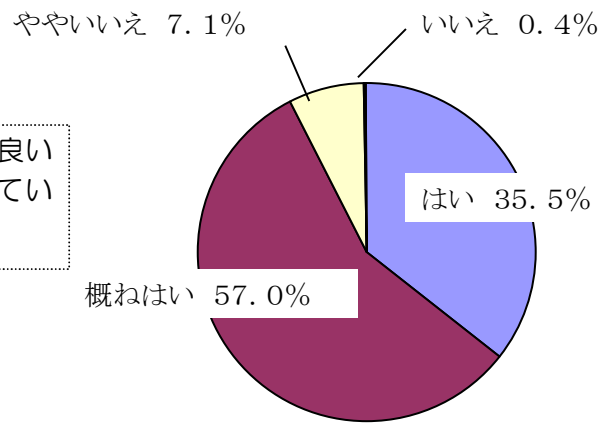
達成



「本校児童は、家族に対して、気持ちの良い挨拶が進んでできるようになってきている。」

肯定率 92.5%

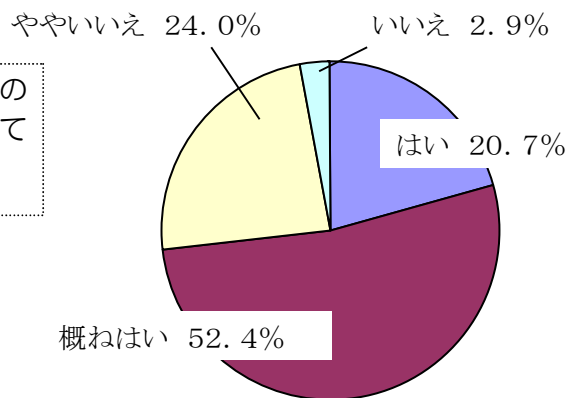
達成



「本校児童は、地域の人に対して、気持ちの良い挨拶が進んでできるようになってきている。」

肯定率 73.1%

未達成

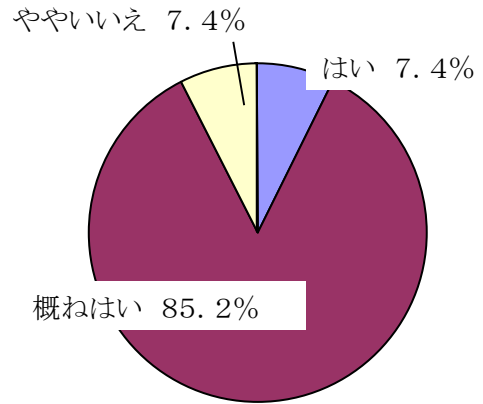


教職員アンケート

「本校児童は、友達に対して、気持ちの良い挨拶が進んでできるようになってきている。」

評価値 3.0

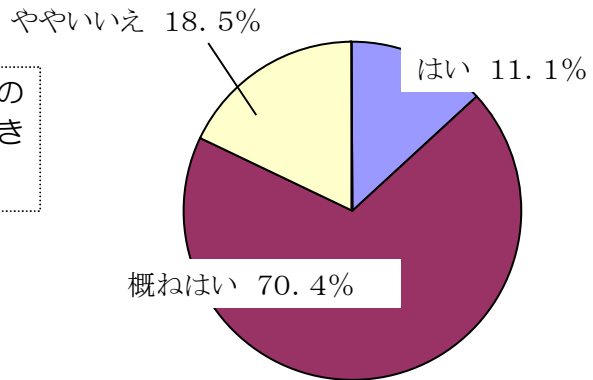
達成



「本校児童は、教職員に対して、気持ちの良い挨拶が進んでできるようになってきている。」

評価値 2.9

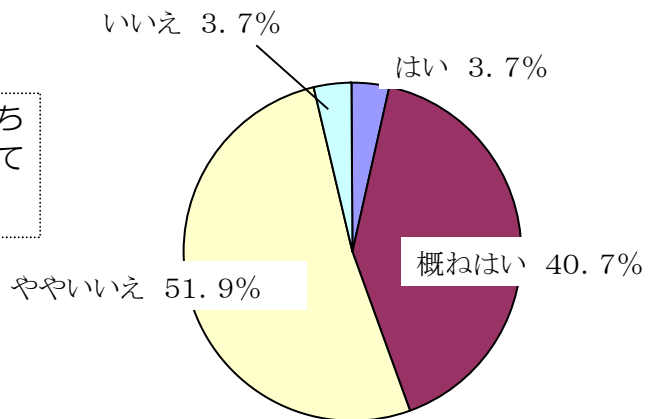
未達成



「本校児童は、地域の人に対して、気持ちの良い挨拶が進んでできるようになってきている。」

評価値 2.4

未達成



【評価結果の考察】

「気持ちの良い挨拶が進んでできる」の4つの要素である「友達に」「家族に」「先生に」「地域の人に」それぞれについての児童の評価結果を見ると、「はい」が55%以上を超えたのは、「家族に」(65.2%)の一つにとどまり、「友達に」(51.6%)「先生に」(51.4%)「地域の人に」(43.6%)は、残念ながら達成目標率を下回りました。ただし、「概ねはい」を含む肯定率は、すべて80%を越えており、挨拶に関する意識は高い状態を保っているものと捉えています。

保護者評価は、「友達に」(90.7%)「家族に」(92.5%)についての評価は、肯定率が90%を超えており、概ね満足できる結果となりました。一方「地域の人に」対しては、肯定率が73.1%で、未達成となりました。これは、不審者に関わる様々な報道が繰り返されるなか、子供たちにどのように働き掛ければいいのか、評価をどうすればよいか迷うという声が複数寄せられたことと無関係ではないと思います。

「友達に」「家族に」「先生に」に比べて、「地域の方」への挨拶の評価が低くなっていることについては、「地域の方」を、子供たちになじみのない不特定多数の大人ではなく、近所の方や顔見知りの方、所属する子ども会や団体の方、ボランティアの方等、お世話になっている方と捉えさせ、それらの方への挨拶がしっかりとできるように働き掛けてきたことが、児童や保護者に十分浸透していないという課題が浮き彫りになったものと考えています。

教職員からは、学級・学年担任以外の教職員への挨拶、学校においてになったお客さんへの挨拶が十分ではないという声が今回もありました。また、場面に応じた挨拶ができるように、状況を判断したり、相手の立場を考えたりさせる指導の必要性が指摘されました。

【次年度に向けた取組】

6年間継続してきた、本校の協働型学校評価目標を、来年度は「相手の気持ちを考えて話したり、話を聞いたりすることができる」に変更し、行動目標を「元気に明るく気持ちの良い挨拶ができる」「相手の気持ちを考えて、あったか言葉で話すことができる」「相手の意図をくみ、目を見て話を聞くことができる」の3つとし、挨拶だけでなく、話し方や話の聞き方の指導を保護者や地域の皆様とともに充実させていきたいと思っています。評価については、6月・9月・12月に児童と教師による自己評価をし、12月には保護者の皆様からの評価をいただき、その結果を検討して成果が見られない点を明確にし、改善のための手立てを講じていきます。

児童会活動でも、引き続き挨拶やあったか言葉について考える機会を持たせ、高学年児童が学校をリードする形で、児童相互の働き掛けを引き出していきます。また、子供たち自身が相手の気持ちや考えを意識して「気持ちの良い挨拶や話し方・聞き方」ができるような、より具体的なめあてが持てるように働き掛けを行っていききたいと思っています。